

第2期

妹背牛町まち・ひと・しごと

創生総合戦略

計画期間 令和3年度～7年度

(改訂版)

第1章 基本的な考え方

第2章 基本目標と施策の体系

資料編

第2期

妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略

12 妹背牛町における安定した雇用を創出する

14 妹背牛町への新しいひとの流れをつくる

16 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

18 ひとが集う、

安心して暮らすことができるまちをつくる

01 第1章 基本的な考え方

02 第2期総合戦略策定の背景と趣旨

国の総合戦略と概要

04 総合戦略の位置付け

05 計画の期間

推進・検証体制

07 第2章 基本目標と施策の体系

08 基本目標と具体的な施策の見直しの考え方

SDGsの視点を取り入れた地方創生の推進、

脱炭素の好循環の実現

10 施策の体系

11 妹背牛町が取り組む総合戦略と重点業績評価指標（KPI）

21 資料編

22 妹背牛町まち・ひと・しごと創生会議

妹背牛町まち・ひと・しごと創生推進本部

23 策定経過

第 1 章

基本的な考え方

- 0 2 第 2 期総合戦略策定の背景と趣旨
国の総合戦略と概要
- 0 4 総合戦略の位置付け
- 0 5 計画の期間
推進・検証体制

1 第2期総合戦略策定の背景と趣旨

本町は、「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年法律第136号）第10条第1項に基づき、人口の現状分析や将来人口推計等を基に、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示した「妹背牛町人口ビジョン」を作成し、これを踏まえて、「妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「第1期総合戦略」という。）を平成27年度に策定し、5ヶ年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめ推進してまいりました。本来であれば、令和2年度からは「第2期総合戦略」がスタートする予定でしたが、第9次妹背牛町総合振興計画（以下、「総合計画」という。）の策定と同時期であったことから、総合計画の内容も反映させるため、第1期総合戦略を1年延長し、令和3年度から令和7年度まで5年間の第2期総合戦略を策定することとなりました。

2 国の総合戦略の概要

第2期総合戦略では、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と「東京圏への一極集中」の是正を共に目指すため、第1期総合戦略の施策体系を見直し、4つの基本目標と2つの横断的な目標の下に取り組む計画となっています。

(1) 基本目標

- | | |
|-------|--|
| 基本目標1 | 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
・地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現
・安心して働ける環境の実現 |
| 基本目標2 | 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
・地方への移住・定着の推進
・地方とのつながりの構築 |
| 基本目標3 | 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
・結婚・出産・子育てしやすい環境の整備 |
| 基本目標4 | ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
・活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保 |

(2) 横断的な目標

- | | |
|---------|--|
| 横断的な目標1 | 多様な人材の活躍を推進する
・多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
・誰もが活躍する地域社会の推進 |
| 横断的な目標2 | 新しい時代の流れを力にする
・地域における Society5.0 の推進
・地方創生 SDGs の実現などの持続可能なまちづくり |

(3) まち・ひと・しごと創生に向けた政策の5原則

① 自立性

地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながる施策に取り組む。

② 将来性

施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。

③ 地域性

地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を自主的かつ主体的に取り組む。

④ 直接性

施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。

⑤ 結果重視

施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的なデータに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

(4) 第2期における新たな視点

① 地方へのひと・資金の流れを強化する

- ・将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出・拡大
- ・企業や個人による地方への寄付・投資等による地方への資金の流れの強化

② 新しい時代の流れを力にする

- ・Society5.0の実現に向けた技術の活用
- ・SDGsを原動力とした地方創生

③ 人材を育て活かす

- ・地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援

④ 民間と協働する

- ・地方公共団体に加え、NPO等の地域づくりを担う組織や企業と連携

⑤ 誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ・女性、高齢者、障がい者、外国人等誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現

⑥ 地域経営の視点で取り組む

- ・地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント

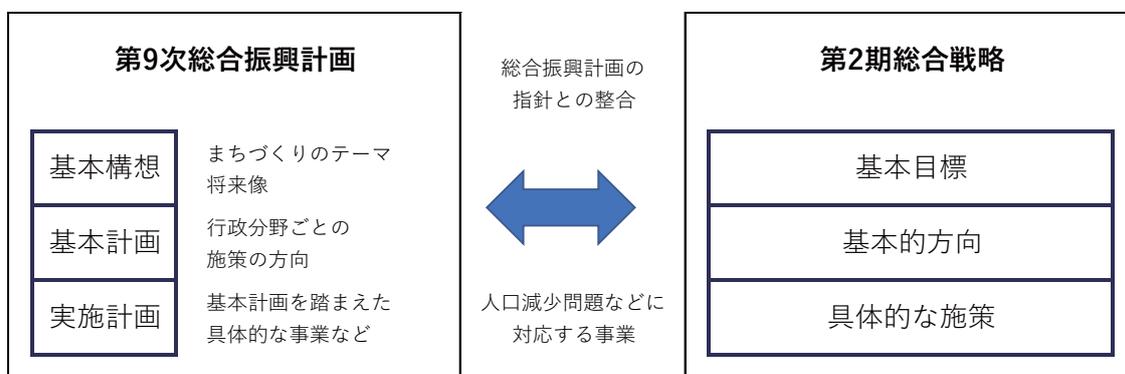
3 総合戦略の位置付け

(1) 妹背牛町総合振興計画との関係

本町は、令和2年度から令和11年度までの10年間を計画期間とした「第9次妹背牛町総合振興計画」(以下、「総合計画」という。)に基づき、まちづくりを進めています。

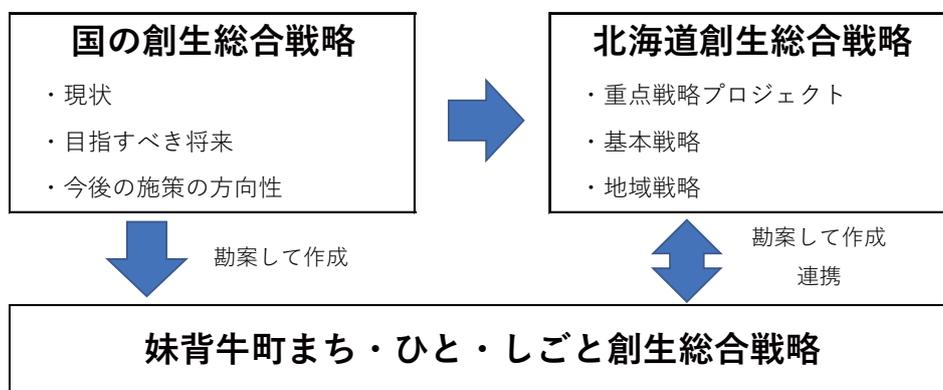
総合計画は、本町の持続的な発展のために、町民、地域、行政が一体となったまちづくりの方向性を示すとともに、まちづくりのテーマである将来像を示す基本構想、将来像を実現するための施策の方向を明らかにした基本計画、さらに基本計画を踏まえた町政の具体的な施策・事業を示す実施計画で構成されることから、まちづくりの最上位に位置付けられる計画であるため、個別の計画の立案や事業内容の選択などは、総合計画に基づいて決定されます。

一方、総合戦略は人口減少問題や地方創生に対応するため、雇用や移住・定住、子育てなどに関する具体的な施策を定める計画であることから、総合計画を基に重点的に取り組むべき施策を示すものであります。



(2) 国・北海道の総合戦略との関係

本町の第2期総合戦略は、国の総合戦略で示されている基本目標等や政策の5原則、新たな視点を勘案するとともに、道が策定する「北海道創生総合戦略」の基本的な考え方も踏まえて策定します。



4 計画の期間

本総合戦略の計画期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

5 推進・検証体制

(1) 推進体制

① 妹背牛町のまち・ひと・しごと創生会議

総合戦略の策定にあたっては、地域の様々な分野で活躍されている方々の参画による「妹背牛町まち・ひと・しごと創生会議」を設置し、計画の方向性や具体案を検討するとともに、広く町民の意見を反映させた計画づくりを行います。

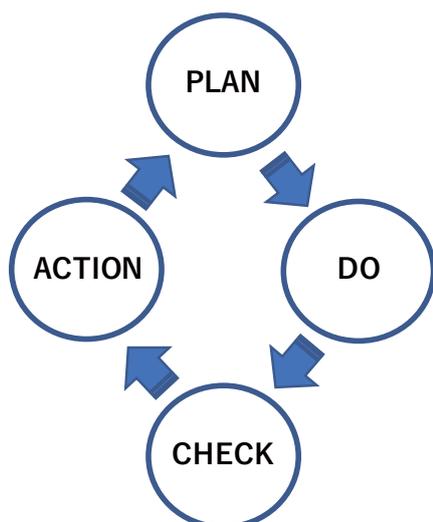
② 妹背牛町まち・ひと・しごと創生推進本部

地方創生を進めるため、町長を本部長、副町長及び教育長を副本部長、各課長・局長・参事を構成員とする「妹背牛町まち・ひと・しごと創生推進本部」を設置し、全庁的な横断体制を確立した上で総合戦略の方策などについて検討します。

(2) 検証体制

本計画の施策・事業の効果検証は、PDCAサイクルによる効果的な見直し・改善を実施していきます。

検証については、「妹背牛町まち・ひと・しごと創生会議」を検証機関とし、基本目標の数値目標及び具体的な施策に係るKPIの達成度を検証していきます。また、議会及び町ホームページにおいて総合戦略の効果検証についての報告を行います。



- Plan(計画)
従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成
- Do(実行)
計画に沿って業務を実施
- Check(点検・評価)
計画に沿って業務が行われているか確認
- Action(改善)
計画に沿っていない部分の改善

第2章

基本目標と施策の体系

- 08 基本目標と具体的な施策の見直しの考え方
SDGsの視点を取り入れた地方創生の推進
- 10 施策の体系
- 11 妹背牛町が取り組む総合戦略と
重点業績評価指標（KPI）

1 基本目標と具体的な施策の見直しの考え方

第1期総合戦略では、4つの基本目標に対して、11の基本的方向を位置付けていました。第2期総合戦略では、国や道の追加・修正内容を勘案するとともに、第9次妹背牛町総合振興計画を反映しつつ、見直しを行います。

具体的には、第1期における基本目標の3と4を国の見直しを反映し修正を行います。また、6つの新たな視点に重点をおいて施策として、11の基本的方向を一部修正し、具体的な施策や事業の見直しを行います。

2 SDGsの視点を取り入れた地方創生の推進、

脱炭素の好循環の実現

SDGs（エス・ディ・ジーズ）は、「Sustainable Development Goals」（持続可能な開発目標）の略称であり、その理念を「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すこととし、平成27年9月の国連サミットにおいて採択されました。貧困や飢餓、さらには気候変動や平和など広範な分野にわたって国連加盟193か国が平成28年から令和12年までの15年間で達成するために掲げた目標であり、経済・社会及び環境それぞれの側面を総合的に向上させるため、17の目標と169のターゲットで構成されています。

国では世界の流れを踏まえ国の第2期総合戦略においても、SDGsを原動力とした地方創生を新たな戦略方向と示しています。

本町においてもSDGsの理念を踏まえ、町の実情に応じた持続可能な社会づくりを推進するため、第2期総合戦略では、各施策がSDGsの17項目の目標に結びついていることが確認できるよう、分かりやすく示していきます。また、2050年脱炭素社会の実現に向け、本町の地域特性に応じた再生エネルギーの導入に取り組み、持続可能な地域づくりにつなげていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17の国際目標

目 標	内 容
 目標 1 (貧困)	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
 目標 2 (飢餓)	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 目標 3 (保健)	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
 目標 4 (教育)	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、福祉を推進する
 目標 5 (ジェンダー)	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
 目標 6 (水・衛生)	すべての人々の水と衛生の利用可能と持続可能な管理を確保する
 目標 7 (エネルギー)	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
 目標 8 (経済成長と雇用)	包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
 目標 9 (インフラ、産業化、イノベーション)	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
 目標 10 (不平等)	各国内及び各国間の不平等を是正する
 目標 11 (持続可能な都市)	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
 目標 12 (持続可能な生産と消費)	持続可能な生産消費形態を確保する
 目標 13 (気候変動)	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
 目標 14 (海洋資源)	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 目標 15 (陸上資源)	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止、回復及び生物多様性の損失を阻止する
 目標 16 (平和)	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて交付的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 目標 17 (実施手段)	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

3 施策の体系

基本目標 1 妹背牛町における安定した雇用を創出する

- (1) 農業生産基盤の整備と高度化
- (2) 商工業活性化の推進

基本目標 2 妹背牛町への新しいひとの流れをつくる

- (1) 地域資源を活かした観光産業の振興
- (2) 移住・定住の促進

基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- (1) 結婚・出産への総合的な支援
- (2) 多様なニーズに対応した子育て環境の充実
- (3) 子どもの健全な成長を促す教育環境の充実

基本目標 4 ひとが集う、 安心して暮らすことができるまちをつくる

- (1) 地域づくり活動の活性化
- (2) 住民が生涯にわたり安心して生活できるまちづくり
- (3) 生活基盤の整備
- (4) 広域連携の充実強化

4 妹背牛町が取り組む総合戦略と

重点業績評価指標（KPI）

- 1 2 基本目標 1
妹背牛町における安定した雇用を創出する
- 1 4 基本目標 2
妹背牛町への新しい流れをつくる
- 1 6 基本目標 3
結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 1 8 基本目標 4
ひとが集う、
安心して暮らすことができるまちをつくる

基本目標 I

妹背牛町における安定した雇用を創出する

数値目標

指 標	基 準 値	数値目標
農業従事者数	496人 (R元年度)	85%以上維持 (R7年度)
町内従業員数(経済センサス)	985人 (H28年度)	90%以上維持 (R7年度)

基本的方向

- 安全・安心で良質な農産物を安定的に生産・提供できる生産性や品質向上及び環境負荷軽減に向けた技術の開発と普及を行います。
- 低コスト生産を目指した大区画圃場や水田の汎用化、土地改良施設の計画的整備、排水改良、水利施設の機能向上など農業生産基盤の整備を推進します。
- 高品質な転作作物の生産と高収益作物の生産拡大、省力化のための水稻直播栽培の作付け拡大など水田農業の体質強化に努めます。
- 様々な作物や家畜を組み合わせることで、さらなる所得増大に向けた複合農業経営を推進します。
- 人材確保による事業展開や事業継承を円滑に進めるために、複数の農家による組織型法人を推進していきます。
- 農業研修生の受け入れを行うとともに、就農祝い金や移住定住施策の住宅支援事業など新規就農者支援を充実させ、新規就農の促進を図ります。
- 農商工連携による6次産業化及び本町の農産品を活かした特産品開発の検討を行います。
- 商工業の持続的発展を図るため、住宅等整備事業や商店街活性化地域支援事業など商工会が実施している施策・事業への支援を行います。
- 町内で新規起業(創業)する方へ物件購入(賃貸)や改修費、設備投資などに対して支援します。
- 新規雇用創出支援事業を通じて、町内企業による雇用創出に向けて支援の充実を図ります。
- 外国人技能実習生等の日本語教育や生活支援のサポート体制を整備します。

具体的な施策及び事業

① 農業生産基盤の整備と高度化

- 安心・安全な農作物の作付け拡大 (Yes!clean など)
- リモートセンシング等による環境負荷軽減とコスト低減
- 道営圃場整備事業による効率的な圃場整備及び水利施設の機能向上
- 産地交付金等制度活用による農業所得の確保
- 水稻直播技術の普及拡大
- ロボット農機 (トラクター、田植機、コンバイン) の運転無人化の調査・研究と導入・普及に向けた検討
- GPS (均平作業、自動操舵装置) 関連事業の普及・充実
- 複合農業経営 (花き・肉牛等) の振興
- ハーブ植栽を中心とした美しい田園景観づくりの推進
- 新規就農者支援の充実
- 法人化に向けた研修会開催の情報提供
- 農業研修生の受け入れ
- 6次産業化・特産品開発の検討

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
自動操舵装置導入率	20% (R元年度)	30% (R7年度)
新規就農者数 (後継者含む)	15人 (R元年度)	15人 (R7年度)
農業法人数	17法人 (R元年度)	20法人 (R7年度)

関連する SDGs

The image shows seven SDG icons: 2 (Good Food and Agriculture), 6 (Clean Water and Sanitation), 8 (Decent Work and Economic Growth), 9 (Industry, Innovation and Infrastructure), 11 (Sustainable Cities and Communities), 12 (Responsible Consumption and Production), and 15 (Life on Land).

② 商工業活性化の推進

- 商工会事業への支援
 - ・住宅等環境整備事業 (リフォーム事業)
 - ・商店街活性化地域支援事業 (ポイントカード事業)
 - ・お買い物おもてなし事業
 - ・商店街街路空間活用事業 (歩花灯設置)
- 中小企業公的資金融資保証料助成
- キャッシュレス決済に対しての支援
- 起業・創業・継承支援体制の整備
- 新規学卒者等雇用に対しての支援 (町内居住者)
- 町内企業の職場体験等の実施による企業PR (学生向け)
- 外国人技能実習生等の生活サポート

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
商店街活性化地域支援事業 (ポイント売上額)	8,484 千円 (第1期平均)	9,200 千円 (単年度平均)
お買い物おもてなし事業利用者数	2,408人 (R元年度)	2,600人 (R7年度)
町内企業における新規雇用者数 (町内居住)	2人 (R元年度)	3人 (単年度平均)

関連する SDGs

The image shows four SDG icons: 8 (Decent Work and Economic Growth), 9 (Industry, Innovation and Infrastructure), 11 (Sustainable Cities and Communities), and 17 (Partnerships for Goal Achievement).

基本目標 2

妹背牛町への新しいひとの流れをつくる

数値目標

指 標	基 準 値	数値目標
観光入込客数（入込総数）	209,802 人 (R元年度)	225,000 人 (R7年度)

基本的方向

- 町民の利用だけでなく、町外在住者の利用も期待できるカーリングホール・遊水公園うらら及び妹背牛温泉ペペル等既存施設・設備の修繕を行い、観光施設づくりを一体的に進めます。
- 本町の観光拠点として約 30 年間、町内外から多くの方々に利用されてきた「妹背牛温泉ペペル」も老朽化が激しいことから、施設・設備全体の改修を行い、リニューアルをすることにより、さらに交流人口の増加へつなげます。
- マスメディア等を活用しながら、地域の魅力を発信し、観光や移住へとつながる取り組みを展開します。
- 道内でも数少ない施設であるカーリングホールのPRを推進し、スポーツ合宿やカーリング大会の誘致を行います。
- 魅力ある観光の振興と交流人口の拡大を目指し、観光資源を結ぶ新たなルートづくりや滞在することができる観光施設の整備について検討を進めます。
- 他地域のイベントへ参加し、特産品の物販販売を通して、観光施設や移住施策をPRします。
- 空知・北空知管内の市町と連携し、広域観光を視野に入れた取り組みを展開します。
- 本町への移住・定住を促進するため、定住促進賃貸住宅建設事業を進め、移住定住施策の充実を図ります。
- 移住者に対しての引越し費用助成をはじめ、民間賃貸住宅等への家賃助成など様々な施策を町内外へ発信するとともに、町外の子育て世帯に対してのアンケート調査を行い、居住環境や支援策のニーズ把握を行います。
- 移住希望者が本町で生活を体験できる施設の整備・確保を行います。
- 都市圏などに向けた移住相談会を行うとともに、短期滞在型ワーケーションのPRも実施します。
- 地域おこし協力隊の募集・受け入れを行い、町外の人材による地域力の維持・強化に取り組みます。

具体的な施策及び事業

① 地域資源を活かした観光産業の振興

- 遊水公園うらら及びカーリングホール設備・遊具の更新
- 妹背牛温泉ペペルのリニューアル
- 観光資源を結ぶ新たなルートづくりを検討
- 滞在型観光が可能な施設整備の検討
- 観光施設等の Wi-Fi 環境整備
- 町民まつり等の充実
- ホームページのリニューアル、SNS等を活用した観光施設やイベント等その他PR強化
- スポーツ合宿の誘致
- 札幌オータムフェストなど町外イベントへの参加
- 近隣市町と観光産業の連携

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
北海道規模以上のカーリング大会開催数	3.2 回 (第1期平均)	3.2 回 (単年度平均)
遊水公園うらら利用者数	40,976 人 (R元年度)	46,000 人 (R7年度)
妹背牛温泉ペペル入館者数	168,826 人 (R元年度)	180,000 人 (R7年度)
町HPの年間アクセス数 (訪問回数)	101,632 回 (R元年度)	120,000 回 (R7年度)

関連する SDGs

② 移住・定住の促進

- 町有宅地の分譲
- UIJターン新規就業支援事業 (国の補助事業)
- 空き地、空き家情報の公開
- 定住促進賃貸住宅建設事業 (民間へ賃貸住宅建設費助成)
- 定住促進支援事業
 - ・ 土地購入費支援事業
 - ・ 住宅新築支援事業
 - ・ 中古住宅購入支援事業
 - ・ 住宅等撤去費支援事業
 - ・ 結婚生活支援事業
 - ・ 出産育児支援事業
 - ・ 妊婦健康診査通院費支援事業
 - ・ 高校通学費支援事業
 - ・ 引越し費用支援事業
 - ・ 民間賃貸住宅家賃支援事業
 - ・ 起業支援事業
 - ・ 小売店舗等設備支援事業 など
- 町外者が移住に求めるニーズ調査の実施
- 移住体験施設の整備・確保
- 都市圏などに向けた移住相談会や短期型ワーケーションのPRを実施
- 地域おこし協力隊の募集

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
引越し費用助成対象者数	0 件 (R元年度)	5 件 (単年度平均)
新築・中古住宅購入数	2 戸 (第1期平均)	2 戸 (単年度平均)
地域おこし協力隊実人数	3 人 (R元年度)	2 人 (R7年度)

関連する SDGs

基本目標 3

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

指 標	基 準 値	数値目標
子育て世帯の転入数	2 世帯 (R 元年度)	3 世帯 (R7 年度)
出生数	11 人 (R 元年度)	11 人 (R7 年度)

基本的方向

- 結婚を希望する独身者の配偶者対策として、出会いの機会をつくるため交流事業を開催します。
- 子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない包括的な支援を行います。
- 子どもが遊べる空間を完備した施設の整備を行い、親子がいつでも集まり交流できる環境づくりを進めます。
- 子どもがのびのびと遊ぶことができるよう、体力の向上を図ります。
- 安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠・出産・子育てのそれぞれの段階における経済的な支援を行うとともに、多様なニーズに対する子育て環境の充実を図ります。
- 子どもの特性に応じたきめ細かな学習環境の整備を図り、確かな学力の向上と望ましい生活習慣の形成を推進します。
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用して、子どもの健全教育や教育に学校と地域が連携して地域ぐるみで取り組む体制づくりを推進します。
- ICT（情報通信）機器を児童生徒ひとりに一台ずつ導入し、教育環境の充実を図ります。
- 近年のグローバル化により、外国籍の住民が増えている状況から、その方々と交流を図りながら、多文化を学ぶ特色ある授業に取り組みます。

具体的な施策及び事業

① 結婚・出産への総合的な支援

- 結婚生活支援事業
- 結婚新生活支援事業（国の補助事業）
- 妊婦健診費用・通院費支援
- 出産育児支援事業
- 産前産後サポート支援事業
- 不妊治療費助成
- 配偶者対策として交流事業の開催

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
婚姻数	5組 (R元年度)	5組 (単年度平均)

関連する SDGs



② 多様なニーズに対応した子育て環境の充実

- 保育料の無償化
- 子育てサークル支援
- 親子の交流拠点となる施設の整備
- 保育時間の延長サービス
- 保育所園児運動能力向上事業
- 学校給食費助成事業（無償化）
- 高校生以下の医療費全額助成
- 子育て支援事業
 - ・ マタニティのつどい
 - ・ 離乳食教室
 - ・ 遊びの教室などの母子健康教室の開催
- 子育て世代への住宅等助成（新築・中古・引越し・家賃）
- 保育環境施策の検討（ファミリーサポートセンター事業等）
- 医療環境の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
保育所園児運動能力向上 年間実施回数	6回 (R元年度)	6回 (R7年度)
乳幼児健診受診率	100% (R元年度)	100% (R7年度)

関連する SDGs



③ 子どもの健全な成長を促す教育環境の充実

- 学校でのPDCAサイクルによる学校改善プランへの支援
- 学習支援員、支援職員の配置による児童生徒への学習環境の改善
- 放課後の学習支援活動による学力向上の推進
- 通学合宿事業による生活習慣形成の推進
- 公設民営塾設置による学力向上対策の検討
- 学校・家庭・地域が連携して子どもを育成する「コミュニティ・スクール」の推進
- ICT機器による効果的な授業の推進
- 多文化などを学ぶ特色ある授業の実施

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
学校が楽しいと答えた 児童・生徒の割合	小 84% 中 72% (R元年度)	小 85% 中 75% (R7年度)
学校の授業が分かりやすい と答えた児童・生徒の割合	小 74% 中 86% (R元年度)	小 75% 中 86% (R7年度)
学校で定める家庭学習 目標時間の達成率	小 48% 中 42% (R元年度)	小 50% 中 50% (R7年度)

※目標を修正 基準値は1時間以上家庭学習をしていた人の割合

関連する SDGs



基本目標 4

ひとが集う、
安心して暮らすことができるまちをつくる

数値目標

指 標	基 準 値	数値目標
地域活動団体数	11 団体 (R 元年度)	11 団体 (R7 年度)
生活支援コーディネーターの配置	2 人 (R 元年度)	2 人 (R7 年度)

基本的方向

- 地域住民を主体とするまちづくりを進めて行くため、「NPO法人わかち愛もせうし」をはじめとする地域活動団体への支援を行い、地域づくり活動の活性化を図ります。
- 妹背牛商業高等学校跡地の利活用について、今後のまちづくりを全体的に考えた中で検討を進めます。
- 2018年北海道胆振東部地震では、集中型エネルギーシステムの脆弱化が明るみになったことから、分散型として地域エネルギーシステムを構築し、公共施設等への電力供給できる施設整備を進めます。
- 地域再生エネルギーの導入により、エネルギーの地産地消の取組を推進し、脱炭素化などの環境負荷の低減を進めるとともに、非常時でも避難所等への電力供給が行える自立的なシステムを構築し、地域防災力の向上に努めます。
- 防災備蓄品の期限管理などの徹底をし、災害時に安心して避難できる環境整備に努めます。
- 災害時にすべての住民へ必要な情報を伝達するため、防災行政無線の整備に取り組み、各家庭へ戸別受信機を配置します。
- 町民の健康保持増進を図るため、感染症や生活習慣病、がんなどの予防や早期発見の体制を充実していきます。
- 町民が生涯にわたり安心して生活できるよう、生活支援体制整備への取り組みや住宅福祉サービスの充実など、高齢者福祉の充実に向けた取り組みをさらに進めます。
- 地域の生活基盤である道路・橋りょうや街灯などを維持・整備するとともに、生活の足となる公共交通機関の維持・確保を行っていきます。
- 高齢者や障がい者等で自家用車を所有していない方に対して、公共交通機関等の助成券を配布します。
- 計画的な公営住宅の建替え・改善・修繕に取り組むとともに、町内に賃貸住宅を建設する事業者等に対して補助を行い、住宅の確保を行います。
- 北空知定住自立圏共生ビジョンに基づき、北空知圏域の様々な行政課題等の解決に取り組むとともに、新たな事業についても検討していきます。

具体的な施策及び事業

① 地域づくり活動の活性化

- わかち愛もせうし等の地域活動団体の育成・活動促進
- わかち愛もせうしひろばの整備・活用の促進
- モスピーポイントを活用した地域ボランティア活動の促進
- 地域おこし協力隊による地域活性化
- 高校跡地の利活用について検討

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
地域活動事業数	37 事業 (R 元年度)	37 事業 (R7 年度)

関連する SDGs

② 住民が生涯にわたり安心して生活できるまちづくり

- 新エネルギーを導入し、公共施設への電力供給
- 地域密着型サービスの充実
- 公用車等の電気自動車普及推進及び充電スタンドの整備
- 在宅福祉サービスの充実
 - ・配食サービス
 - ・除雪サービス
 - ・緊急通報システム設置
 - ・介護予防生活支援サポーター事業
- 避難所等への非常用電源設備の整備
- 防災備蓄品の期限管理の徹底
- 防災行政無線の整備
- 認知症ケアの充実
- 予防接種及び健診費用の助成
- 高齢者向け住宅の整備
- モスピーポイントを活用した健診率の向上
- 医療体制の充実（医療連携・施設整備の充実）
- 生活支援体制整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
特定健診受診率	50% (R 元年度)	62% (R7 年度)
医療機関数	3 機関 (R 元年度)	3 機関 (R7 年度)

関連する SDGs

③ 生活基盤の整備

- 道路・橋りょうの長寿命化対策
- 除排雪体制の整備
- 公共交通体系・通学用交通機関の維持・確保
- 公営住宅の整備及び民間賃貸住宅建設の促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
道路・橋りょうの長寿命化対策の整備率	道 21% 橋 39% (R 元年度)	道 68% 橋 100% (R7 年度)
L E D防犯灯の設置率	73% (R 元年度)	85% (R7 年度)

関連する SDGs

④ 広域連携の充実強化

- 北空知広域連携事業の強化・充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	数値目標
広域連携事業数	21 事業 (R 元年度)	21 事業 (R7 年度)

関連する SDGs

- 2 2 妹背牛町まち・ひと・しごと創生会議
妹背牛町まち・ひと・しごと創生推進会議
- 2 3 策定経過

妹背牛町まち・ひと・しごと創生会議

所 属	職 名	氏 名	備 考
妹背牛町議会	議長	渡 会 寿 男	
妹背牛町教育委員会	教育長職務代理	前 田 靖	
妹背牛町農業委員会	会長	瀧 本 賢 毅	
北いぶき農業協同組合	上席理事	徳 本 一 也	R3.4.9～
妹背牛商工会	会長	赤 藤 敏 仁	
北空知信用金庫妹背牛支店	支店長	佐 藤 保 則	
妹背牛町社会福祉協議会	会長	中 易 猛	
区長会	会長	篠 澤 一 司	R4.1.1～
妹背牛町校長会	会長	坂 本 征 人	R3.4.1～
妹背牛町PTA連合会	会長	山 本 淳 之	R3.4.1～
保育所父母の会	会長	竹 山 実 希	R3.4.1～
青空自主保育とちのみ	代表	関 舞	

妹背牛町まち・ひと・しごと創生推進本部

役 職	職 名	氏 名	備 考
本部長	町長	田 中 一 典	
副部長	副町長		
	教育長	石 井 美 雪	
本部員	総務課長	滝 本 昇 司	
	住民課長	清水野 勇	
	農政課長	廣 田 徹	
	建設課長	西 田 慎 也	
	教育課長	山 下 英 俊	R3.4.1～
	健康福祉課長	河 野 和 浩	
	健康福祉課参事	廣 田 龍 子	
	議会事務局長	菅 一 光	
	農業委員会事務局長	篠 原 敬 司	R3.4.1～
	消防支署長	川 村 紀 幸	
	企画振興課長(兼事務局長)	廣 澤 勉	
事務局担当職員	企画振興グループ主幹	塚 原 由 大	
	企画振興グループ主査	大 崎 剛 典	

策定経過

- 令和 2年 7月 7日 事務局打ち合わせ
7月 8日 理事者打ち合わせ
7月21日 第1回まち・ひと・しごと創生推進本部会議
8月20日 第2回まち・ひと・しごと創生推進本部会議
9月 8日 第1回まち・ひと・しごと創生会議
10月14日 第2回まち・ひと・しごと創生会議
10月23日 第3回まち・ひと・しごと創生推進本部会議
11月 5日 第3回まち・ひと・しごと創生会議
11月13日～24日
パブリックコメントの実施
11月27日 まち・ひと・しごと創生会議 答申書提出



- 令和 3年 9月21日 事務局打ち合わせ
9月22日 理事者打ち合わせ
10月 1日 第1回まち・ひと・しごと創生推進本部会議
11月 1日 第2回まち・ひと・しごと創生推進本部会議
令和 4年 1月17日 第1回まち・ひと・しごと創生会議（書面会議）

第 2 期

妹背牛町まち・ひと・しごと

創生総合戦略

計画期間 令和 3 年度～ 7 年度

策定 令和 2 年 11 月

改訂 令和 4 年 1 月

〒 079-0592

北海道雨竜郡妹背牛町字妹背牛 5200 番地 妹背牛町企画振興課

TEL 0164-34-8581 FAX 0164-32-2290 <http://www.town.moseushi.hokkaido.jp>